

教科	商業	科目	課題研究	単位数	3
学年	3年	類型	流通経済科		
教科書(出版社)	課題研究の手引き(松山商業高校)				
副教材(出版社)					
授業の概要	財務諸表に関する基礎的な知識と技術の習得に重点を置く。また、利害関係者に会計情報を提供する能力と態度及び、提供された会計情報を活用する能力と態度を育成する。				
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 財務諸表の作成に関する知識と技術を習得する。 2 財務会計の意義や制度について理解する。 3 会計情報を提供し、活用する能力と態度を身に付ける。 				
年 間 学 習 計 画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学 期	第1編 企業会計の基礎	<ul style="list-style-type: none"> ・資産、負債、純資産の種類と会計処理及び財務諸表の作成をとおして、企業の財政状態を適切に報告するための基礎的な知識と技術を習得する。 ・損益計算の意味と損益の区分、収益・費用の認識と測定及び損益計算書の作成をとおして、企業の経営成績を適切に報告するための基礎的な知識と技術を習得する。 		
		第2編 資産			
		第3編 負債			
		第4編 損益計算			
		第5編 財務諸表の作成			
2 学 期	第6編 財務諸表の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・財務諸表分析の意義及び財務諸表の見方について学び、財務諸表を活用するための基礎的な知識と技術を習得する。 ・連結財務諸表の目的と連結の範囲及び連結財務諸表の基礎について学び、連結財務諸表に関する基礎的な知識と技術を習得する。 			
	発展学習				
3 学 期	発展学習	<ul style="list-style-type: none"> ・日商簿記検定の問題や全商会計実務検定の問題をとおして、知識の深化と技術の慣熟を図る。 ・企業の経営者や社会人としての倫理観等を身に付ける。 			
観 点 別 評 価	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	会計情報を利害関係者に提供する能力と態度及び提供された会計情報については、ビジネスの諸活動に適切に活用する能力と態度を身に付けている。		会計に関する法規や基準の変更に対応し、適切な財務諸表を作成したり、利害関係者にとって有用性の高い分析をしたりするなど、主体的な判断を基に正確な作業ができる。		財務会計に関する学習に興味・関心を持ち、授業や課題に対して意欲的に取り組むなど、知識の深化と技術の向上に努めている。
備 考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。				

教科	商業	科目	課題研究	単位数	3
学年	3年	類型	流通経済科		
教科書(出版社)	課題研究の手引き(松山商業高校)				
副教材(出版社)					
授業の概要	製造業における工業簿記の記帳法と、原価計算の基本的な考え方、知識と技術を習得する。また、原価計算によって得られる情報を効果的に活用するための能力と態度を育てる。				
授業の目標	1 原価計算に関する基本的・基礎的な知識と技術を身に付ける。 2 製造業において行われる取引・活動を計数的に把握し、活用する学習を通して、原価に対する理解を深める。				
年間学習計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1学期	第Ⅰ編 原価と原価計算 第1章 原価の概念 第2章 原価計算の特色としくみ 第Ⅱ編 原価の費目別計算 第1章 材料費の計算 第2章 労務費の計算 第3章 経費の計算 第Ⅲ編 原価の部門別計算と製品別計算 第1章 個別原価計算	・原価の概念、原価計算の目的、製造業における簿記の特色としくみについて学び、原価計算の概要について理解する。 ・材料費、労務費及び経費の計算と記帳をとおして、原価の費目別計算を行うための基礎的な知識と技術を習得する。 ・個別原価計算、部門別個別原価計算、総合原価計算について学び、原価の部門別計算と製品別計算の行うための基礎的な知識と技術を習得する。		
	2学期	第2章 部門別個別原価計算 第3章 総合原価計算 第Ⅳ編 内部会計 第1章 製品の完成と販売 第2章 本社・工場会計 第3章 製造業の決算 第Ⅴ編 標準原価計算 第1章 標準原価計算の目的と手続き	・製品の完成・販売と本社・工場間の取引の記帳方法及び製造業の決算について学び、製品の完成・販売に関する会計処理と決算を行うための基礎的な知識と技術を習得する。 ・標準原価計算の目的と手続き、原価差異の原因分析及び損益計算書の作成をとおして、標準原価計算を行うための基礎的な知識と技術を習得する。		
	3学期	第2章 原価差異の原因別分析 第Ⅵ編 直接原価計算 第1章 直接原価計算の目的と財務諸表の作成 第2章 短期利益計画への活用	・直接原価計算の目的と損益計算書の作成及び短期利益計画について学び、直接原価計算の有用性について理解する。		
観点別評価	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	原価計算に関する会計処理及び原価情報の活用に関する理論的な知識と技術にとどまらず、実務と関連付けられビジネスの様々な場面で役に立つ知識と技術が身についている。	原価計算をはじめとした様々な知識、技術などを活用し、原価計算に関する理論、企業活動の流れなど科学的な根拠に基づいて工夫してより良く課題に対応する力が身についている。	他者と信頼関係を構築して積極的にかかわり、原価の費目別計算、部門別計算、製品別計算などによる原価情報の提供と効果的な活用に責任を持って取り組む態度が身についている。		
備考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。				

教科	商業	科目	課題研究	単位数	3
学年	3年	類型	流通経済科		
教科書(出版社)	課題研究の手引き(松山商業高校)				
副教材(出版社)					
授業の概要	簿記の基礎的・基本的な技術を身に付け、ビジネスの諸活動を計数的に把握し、適切に処理するとともに、その成果を的確に表現する。				
授業の目標	1 企業において発生する取引を仕訳し、勘定科目を経て、決算に至る簿記の基本的な仕組みについて理解する。 2 帳簿や財務諸表を通して、ビジネスの諸活動を計数的に把握する能力と態度を身に付ける。				
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学期	第Ⅰ編 簿記の基礎 第Ⅱ編 取引の記帳と決算Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・簿記の意味、目的、役立ちなどを理解させ、学習の心構えを養う。 ・資産・負債・純資産・収益・費用のそれぞれの意味と種類を理解する。 ・現金、当座預金、その他の預金の意味を理解する。 ・3分法による商品売買損益の計算法と記帳法を習得する。 ・第Ⅱ編で学習したいろいろな勘定科目の意味を理解し、正しい仕訳ができるようにする。 		
	2 学期	第Ⅲ編 取引の記帳と決算Ⅱ 第Ⅳ編 帳簿・伝票 第Ⅴ編 取引の記帳と決算Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> ・約束手形と為替手形の違いを理解させ、これらの手形の授受に伴う記帳法を理解する。 ・帳簿の種類と、帳簿組織およびそれらと分課制度との関係、帳簿種類の立案について理解する。 ・普通の売買取引と対比させながら、それぞれの取引の特徴を十分理解する。 		
	3 学期	第Ⅵ編 本支店の会計 発展編 株式会社の記帳	<ul style="list-style-type: none"> ・支店会計の意味を理解させ、本支店間および支店相互間の取引の記帳法を理解する。 ・未達事項の意味と、その整理法を理解させる。 ・株式会社と個人企業との記帳方法の違いについて理解する。 ・繰延資産の意味と種類について理解する。 ・剰余金の処分、社債、税金の記帳について理解する。 		
観点別 評価	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	簿記について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けられた。	取引の記録と財務諸表の作成方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を養うことができた。	企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力の向上を目指して自ら学び、適正な取引の記録と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組む態度を養うことができた。		
備考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。				

教科	商業	科目	課題研究	単位数	3
学年	3年	類型	流通経済科		
教科書(出版社)	課題研究の手引き(松山商業高校)				
副教材(出版社)	ビジネス文書実務検定模擬試験問題集(実教出版)				
授業の概要	<p>1 ビジネスの諸活動における情報伝達手段としての文書の重要性を理解させるとともに、情報を効果的に伝える文書を作成し、発信する能力と態度を育てる。</p> <p>2 職業資格の取得これまで学習した知識・理解の習得を確認しながら、上級資格取得を目指す。</p>				
授業の目標	マルチメディアを活用してビジネス情報を創造的に表現し、分かりやすく、説得力のある文書を作成するための知識と技術を習得させ、情報通信ネットワークやソフトウェアを活用したプレゼンテーションなどにより、ビジネスにおける総合的な情報発信能力を育てる。				
年間学習計画	学習内容(単元・項目)			学習目標	
	1 学期	<p>(1) オリエンテーション</p> <p>(2) 形式別演習 (全商情報処理検定)</p> <p>①ハードウェア・ソフトウェアに関する知識</p> <p>②通信ネットワークに関する知識</p> <p>③情報モラルとセキュリティに関する知識</p> <p>④計算問題</p> <p>⑤表計算ソフトウェアに関する知識</p> <p>⑥データベースソフトウェアに関する知識</p>	<p>(全商ビジネス文書検定)</p> <p>① 速度</p> <p>② ビジネス文書</p> <p>③ 筆記</p> <p>④ 検定問題演習</p>	<ul style="list-style-type: none"> 表計算ソフトウェアを通して、情報の集計と分析について理解し、様々な集計方法や分析結果を適切に表現する能力を身に付ける。 リレーショナルデータベースの特徴や機能を理解するとともに、データベースソフトウェアを活用するための知識と技術を身に付ける。 情報を効果的に伝える文書を作成する。 分かりやすく、説得力のある文書を作成するための知識と技術を習得する。 時間内に正しく正確な文字入力ができているか確認する。 手引きの記入を毎時確実に行わせる。 一学期を振り返り今後につなげる。 	
	2 学期	(3) マルチメディアの活用		<ul style="list-style-type: none"> 作表問題についての解説を行い、理解させる。 各種機能や作表の内容について説明し学習する。 2学期の報告書を作成し、報告させ、生徒に発表させる。生徒の相互間の自己評価を行わせる。 	
	3 学期	(4) プレゼンテーション		<ul style="list-style-type: none"> 課題研究報告書を作成し、発表させる。 	
観点別評価	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	<p>文書作成が時間内に正しく行われ、学習した内容が適切に行われている。</p> <p>マルチメディアと関連づけた処理作成について基礎・基本的な知識が身に付いている。</p>		<p>文書の構成を様々な角度から考察し、それぞれに見合った処理が判断できる。</p> <p>情報の集計と分析について理解し、様々な集計方法や分析結果を適切に表現する能力が身に付ける。</p>		<p>通信文書の仕組みについて学習し、関心を持ち主体的に取り組んでいる。</p> <p>表計算ソフトウェアを効果的に活用し、関心を持ち主体的に取り組んでいる。</p>
備考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。				

教科	商業	科目	総合実践	単位数	2
学年	3年	類型	流通経済科		
教科書(出版社)	総合実践 一企業取引を学ぶー 三訂版(実教出版)				
副教材(出版社)					
授業の概要	<p>1 これまでに学習してきた各科目の内容が、実際のビジネス活動でどのように関連しているかを実践的に学習する。</p> <p>2 ビジネス活動に必要な知識・技術について、模擬実践を通して、一連の業務の中で体験的・一体的に学習する。</p>				
授業の目標	<p>1 ビジネスに必要な基本的な知識・技術・態度を総合的に身に付け、それらを実際に活用できるようにする。</p> <p>2 ビジネス社会の有機的な関連を実践的に理解し、その中で自分が担当する職務についての自覚を深める。</p>				
年間学習計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1学期	<p>第1編 基礎編</p> <p>第1章 総合実践の学習</p> <p>第2章 ビジネスマナー</p> <p>第3章 ビジネス文書の作成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の目標と心得、学習方法を理解する。 ・社会人に必要となる基本的なマナーや応対時のマナー、電話応対について理解し、技術を身に付ける。 ・ビジネス文書の役割と重要性を理解し、基本的な作成技術を身に付ける。 		
		<p>第2編 実践編</p> <p>第1章 模擬取引の学習</p> <p>第2章 模擬取引</p> <p>1 卸売商の業務</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・卸売商の開始業務、経営計画、仕入業務、販売業務、月末・期末業務等に必要な知識・技術・態度を実践的な演習をとおして学習する。 		
	2学期	<p>2 倉庫会社の業務</p> <p>3 保険会社の業務</p> <p>4 運送会社の業務</p> <p>5 銀行の業務</p> <p>6 管理部の業務</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各会社(倉庫・保険・運送・銀行・管理部等)の開始業務、日常業務、月末業務について理解し、実践的な演習をとおして技術を身に付ける。 ・期末業務等に必要な知識・技術・態度を実践的な演習をとおして学習する。 		
<p>7 情報処理の業務</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・総合実践におけるコンピュータの利用について、知識と技術を身に付ける。 			
観点別評価	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	<p>記帳に必要な仕訳を理解し、諸帳簿・諸表の作成ができる。</p> <p>帳票作成に必要な個々の金額の計算方法を理解している。</p> <p>取引に関する証票に基づく起票、帳簿記入ができる。</p>	<p>会社の一員であるという意識を持ち、ビジネスマンとしてのマナー等に注意を払いながら行動することができる。</p> <p>取引の流れや諸帳簿の起票および会計処理を正しく理解している。</p>	<p>ビジネスの諸活動に関心を持ち、自ら考えて積極的に活動することができる。</p> <p>ビジネスに必要なマナーや知識を進んで習得しようとしている。</p>		
備考	<p>学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。</p>				

教科	商業	科目	ビジネス・マネジメント	単位数	2
学年	3年	類型	流通経済科		
教科書(出版社)	ビジネス・マネジメント(実教出版)				
副教材(出版社)	ビジネス・マネジメント準拠問題集(実教出版)				
授業の概要	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことを通して、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を身に付けることを目指します。				
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 商業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 2 ビジネスに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を理解し、合理的・創造的に解決する力を養う。 3 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組み態度を養う。 				
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学期	第1章 ビジネスの創造 第2章 ビジネスの組織化	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスにおけるマネジメントの概要を理解する。 ・マネジメントについての意識と意欲を高め、組織の一員として他者と協働する力を身に付ける。 ・ビジネスの創造について理解する。 ・組織のマネジメントについて企業における事例と関連付けて理解する。 ・組織のマネジメントに関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、組織の管理と活性化の方策を考案して実施し、評価・改善をおこなう。 ・組織のマネジメントについて自ら学び、組織の一員として組織の適切な管理と活性化について、他者と協働する力を身に付ける。 		
	2 学期	第3章 経営資源のマネジメント 第4章 ビジネスの変革	<ul style="list-style-type: none"> ・経営資源のマネジメントについて企業における事例と関連付けて理解する。 ・経営資源のマネジメントに関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、経営資源の管理と活用の方策を考案して実施し、評価・改善をおこなう。 ・経営資源のマネジメントについて自ら学び、経営資源の適切な管理と効果的な活用について、他者と協働する力を身に付ける。 ・ビジネスの創造と展開について企業における事例と関連付けて理解し、課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、ビジネスの創造と展開に関する計画を立案して実施し、評価・改善をおこなう。 ・ビジネスの創造と展開について自ら学び、プロジェクトを適切に管理し、ビジネスの創造と展開について、他者と協働する力を身に付ける。 		
	3 学期	第5章 ビジネスと社会	<ul style="list-style-type: none"> ・企業の秩序と責任について企業における事例と関連付けて理解する。 ・企業の秩序と責任に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、企業の秩序の維持と責任を果たす方策を考案して実施し、評価・改善をおこなう。 ・企業の秩序と責任について自ら学び、企業の秩序を維持し、責任を果たすことについて、他者と協働する力を身に付ける。 		
観点別 評価	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	ビジネスにおけるマネジメントについて実務に即して体系的・系統的に理解し、ビジネスの様々な場面で役立つマネジメントに関する知識を身に付けている。	ビジネスにおけるマネジメントをはじめとした様々な知識などを活用し、課題を発見し、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、経済社会の動向、マネジメントの理論、データ、成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決することについて考えている。	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自らマネジメントについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、経営資源のマネジメント、新たなビジネスの創造と展開などに責任をもって取り組もうとしている。		
備考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。				

教科	商業	科目	グローバル経済	単位数	2
学年	3年	類型	流通経済科		
教科書(出版社)	グローバル経済(実教出版)				
副教材(出版社)	グローバル経済準拠問題集(実教出版)				
授業の概要	経済のグローバル化をはじめとした様々な知識を活用し、企業における経済のグローバル化への対応に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいてより良く解決することについて考える。				
授業の目標	1 経済のグローバル化について実務に即して体系的・系統的に育成することを目指す。 2 経済のグローバル対応に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 3 ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、グローバル化する経済社会におけるビジネスに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				
年間学習計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1学期	第1章 グローバル化が進展する社会 1 国境を越えて広がる世界 2 グローバル化する社会 3 グローバル化と地域経済統合の動き 4 グローバル化と経済発展 5 グローバル化の諸問題 第2章 経営のグローバル化 1 多国籍企業とグローバル経営 2 企業の海外進出とグローバル経営の難しさ 3 グローバル経営の現状 4 グローバル経営の課題 5 グローバル化に伴う企業の社会的責任	・グローバル化と国際化の違いについて理解し、グローバル化する現在の社会について理解を深める。 ・金融、企業、社会の多様性とグローバル化の関連について考える。 ・地域経済統合の意義について学ぶ。 ・グローバル化によってどのように経済発展に結びつくのかを学ぶ。 ・グローバル化による問題点について考え、対応方法について検討する。 ・多国籍企業とグローバル経営について理解し、企業がグローバル化する理由について考える。 ・企業が海外進出する方法や難しさなどを学ぶ。 ・グローバル経営における課題を把握し、対応策について考える。 ・グローバル経営を進めるにあたって求められる企業の社会的責任について理解する。		
	2学期	第3章 経済のグローバル化 1 人材のグローバル化 2 財とサービスとグローバル化 3 金融のグローバル化 4 情報のグローバル化	・経済のグローバル化における人材の状況を外国人労働者や賃金の観点を含めて理解する。 ・自由貿易と国際分業の観点を基に経済のグローバル化における財のやり取りに関して、2国間協定や地域経済統合の意義を学ぶ。 ・金融の役割や形態、金融商品、金融機関等について学ぶ。 ・情報通信技術の発達と個人情報のあり方についての視点から情報のグローバル化について理解する。		
	3学期	第4章 市場と経済 1 需要と供給による市場の理論 2 経済成長 3 景気循環とインフレーション 4 経済政策	・需要と供給に着目した市場に関する理論について理解し、現実の社会における市場の役割と課題について学ぶ。 ・GDPについて理解し、マクロ的な視点から経済成長について学ぶ。 ・経済政策における政府の役割について学び、現状と問題点について学ぶ。		
観点別評価	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	企業活動のグローバル化について経済社会における事例と関連づけて理解している。	企業活動のグローバル化に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて、課題への対応策を考案して実施し、評価・改善できる。	企業活動のグローバル化について自ら学び、その動向を踏まえ、ビジネスに取り組むことができる。		
備考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。				

教科	商業	科目	ビジネス法規	単位数	3
学年	3年	類型	流通経済科		
教科書(出版社)	ビジネス法規(東京法令出版)				
副教材(出版社)	ビジネス法規 ワークブック(東京法令出版)				
授業の概要	法規にもとづくビジネスの展開に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
授業の目標	1 ビジネスに関する法規について実務に即して体系的・系統的に理解する。 2 法的側面からビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として法的な根拠にもとづいて創造的に解決する力を養う。 3 ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、法規にもとづくビジネスに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学期	第1章 法の概要 第1節 ビジネスにおける法の役割 第2節 法の体系と解釈・適用 第3節 権利・義務と財産権 第2章 企業活動と法規 第1節 契約 第2節 企業活動における契約 第3節 株式会社の特徴と機関 第4節 資金調達と金融取引	・法の意義や、体系、法の分類および法の解釈・適用などについて理解する。 ・契約の意義・成立・効力、典型契約、契約自由の原則およびその制限について理解する。 ・株式会社の意義、株主の責任と地位、株式の譲渡および所有(資本)と経営の分離などについて理解する。 ・銀行融資・クラウドファンディングなどの資金調達の方法、金融商品取引法・電子記録債権法などの金融取引に関する法律の概要、金融商品に関するセーフティネットについて理解する。		
		2 学期	第5節 組織再編と清算・再建 第6節 競争秩序の確保 第3章 税と法規 第1節 税の種類と法人の納税義務 第2節 法人税の申告と納付 第3節 消費税の申告と納付 第4章 企業責任と法規 第1節 法令遵守(コンプライアンス) 第2節 労働者の保護 第3節 消費者の保護 第4節 情報の保護	・破産・民事再生など企業の清算・再建について理解する。 ・知的財産権の意義とその種類などについて理解する。 ・税務会計の概要や、法人の確定申告の流れと申告書の作成などについて理解するとともに、消費税の意義とその課税対象、税額計算の考え方および商品税の申告などについて理解する。 ・労働三法を始めとする労働者保護に関する規定、日本における労働者の保護に関する課題などについて理解する。 ・消費者基本法を始めとする消費者の保護に関する規定、日本における消費者の保護に関する課題などについて理解する。 ・ビジネスをおこなうさいの情報の保護の重要性や、日本における情報の保護に関する課題などについて理解する。	
	3 学期		第5節 紛争の予防と解決 第5章 経済環境の変化と法 第1節 経済環境の変化と法	・ADR・和解・調停・仲裁・民事訴訟などの紛争の解決方法、裁判所の種類とその権限および国際的な紛争の解決などについて理解する。 ・経済活動の国際化・情報化・サービス経済化など、経済環境の変化にともなう法の改正などについて理解する。	
観点別 評価	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	企業における事例など実際のビジネスと関連付けられ、ビジネスのさまざまな場面で役に立つ法規に関する知識が身に付いている。	ビジネスに関する法規をはじめとしたさまざまな知識などを活用し、ビジネスに関する課題を発見するとともに、法的な根拠にもとづいて工夫してよりよく解決する力が身に付いている。	法規について学ぶ態度および組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、法規にもとづくビジネスに責任をもって取り組む態度が身に付いている。		
備考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。				

教科	商業	科目	財務会計Ⅱ	単位数	2
学年	3年	類型	流通経済科		
教科書(出版社)	財務会計Ⅱ (実教出版)				
副教材(出版社)					
授業の概要	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、会計情報の提供と活用に必要な資質・能力を育成する				
授業の目標	1 財務会計について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 2 企業会計に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応するとともに、会計的側面から企業及び企業の経営判断を分析する力を養う。				
年間学習計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1学期	第1編 財務会計の基本概念と会計基準 第1章 財務会計の基本概念 第2章 資産負債アプローチと収益費用アプローチ 第3章 会計基準の国際的統合 第2編 財務会計の実際 第4章 資産会計 第5章 負債会計 第6章 純資産会計 第7章 損益会計 第8章 リース会計 第9章 税効果会計	・財務会計の基本概念と会計基準に関する知識などを基盤として、財務会計と会計基準の意義について自らの考えをもつとともに、適切な会計情報の提供と効果的な活用ができる。 ・金融商品、収益、費用などの会計処理に関する知識、技術などを基盤として、企業会計に関する法規と基準を実務に適用し、適切な会計情報の提供と効果的な活用ができる。		
	2学期	第3編 企業活動の展開と財務会計 第10章 外貨換算会計 第11章 キャッシュ・フロー計算書 第4編 企業結合の会計 第12章 企業結合会計 第13章 連結財務諸表の作成(その1) 第14章 連結財務諸表の作成(その2) 第15章 持分法 第16章 連結財務諸表の活用 第5編 財務諸表の活用 第17章 財務諸表の活用	・キャッシュ・フローに関する財務諸表に関する知識、技術などを基盤として、企業会計に関する法規と基準を実務に適用し、適正なキャッシュ・フローに関する財務諸表による適切な会計情報の提供ができる。 ・企業結合の形態、合併後の財務諸表の作成など企業集団の会計に関する知識、技術などを基盤として、企業会計に関する法規と基準を実務に適用することができる。		
	3学期	第6編 監査と職業会計人 第18章 監査と職業会計人	・監査と職業会計人に関する知識などを基盤として、監査と職業会計人に関する制度に基づいて、会計情報の信頼性の確保について、組織の一員としての役割を果たすことができるようにすることをねらいとしている。		
観点別評価	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	財務会計について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術が身に付いている。	企業会計に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と課題を見出し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応するとともに、会計的側面から企業及び企業の経営判断を分析することができる。	会計責任を果たす力の向上を目指して自ら学び、国際的な会計基準を踏まえた適切な会計情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組むことができる。		
備考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。				

教科	商業	科目	ネットワーク活用	単位数	2
学年	3年	類型	流通経済科		
教科書(出版社)	ネットワーク活用 (実教出版)				
副教材(出版社)					
授業の概要	ビジネスに携わる者としての視点や資質を養えるように、電子商取引に関連した内容だけに特化せず、社会的な動向や技術の発展、新しいビジネスのかたちについて学ぶ。				
授業の目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスにおけるインターネットの活用に必要な資質・能力を育成することを目指す。				
年 間 学 習 計 画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学 期	1章 情報通信技術の進歩とビジネス 2章 情報コンテンツの制作	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットを活用したビジネスを展開する際に留意すべき個人情報や知的財産の保護の概要を学び、その重要性を理解している。 ・インターネットを活用したビジネスに関する法規やガイドラインの概要を学び、その必要性を理解している。 ・図形と静止画の情報コンテンツについて、利用方法や表現方法などの基礎的な知識を理解するとともにそれらを作成・編集することができる。 		
	2 学 期	3章 企業情報の発信と Web デザイン 4章 インターネットと情報セキュリティ 5章 電子商取引とビジネス	<ul style="list-style-type: none"> ・Web ページの制作とデザインについて理解するとともに一般的な Web ページ制作手順を理解している。 ・CMS を利用する意義や利点を理解するとともに適切に用いて、Web サイト構築をすることができる。 ・インターネットの仕組み、ビジネスにおいてインターネットを活用する利点及びインターネットサービスプロバイダの役割と業務について理解している。 ・企業間取引、企業対消費者間の商取引について学習し、情報通信ネットワークを活用したビジネスについて理解している。 		
	3 学 期		<ul style="list-style-type: none"> ・電子商取引を行うためのシステム構築方法を理解するとともに Web ページ作成ソフトウェアやフリーソフトウェアを使って構築することができる。 ・新たなビジネスの創造について進化する AI の活用方法について理解している。 		
観 点 別 評 価	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	ビジネスにおけるインターネットの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに関連する技術を身に付けている。		ビジネスにおいてインターネットを活用することに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。		企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスにおけるインターネットの活用主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
備 考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況をA・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。				